



宮司プレス第十六号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成十九年九月五日

宮司の柴田です。

今年の夏は、連日のように観測史上最高の気温を更新する「猛暑日」が続きました。気象庁は、今年から気温が三十五度を超えた日を「猛暑日」と呼ぶ事にしましたが、八月は体温を越す異常な猛暑がひんぱりました。関門医療センターでは、毎日二百人くらい「熱中症」と診断される方がいらつしやうたそうです。世界各地でも気象の災害が多発していて、中国南部の豪雨やアフリカのスーダンでは、季節はずれの大雨が降り、南米のチリやアルゼンチンでは氷点下二十度を記録、南アフリカでは二十六年ぶりに降雪を記録したようです。

九月は、長月（ながつき）です。九月は、長月（ながつき）といいますが、秋の夜長月（あきのよながつき）の事であると考えられます。また一説には、稲作の収穫の時期を迎えて、「稻刈上げ月（いねかりあげつき）」や「稻熟り月（いねあがりつき）」が、なまり変化したものだとも考えられています。春分の日と秋分の日は、国民の祝日です。春分も秋分も太陽の運行に従った節目の日であり、「春分」「秋分」「夏至」「冬至」をもって「二至二分」といい、旧暦（太陽太陰暦）では重要な節目の日でした。また、太陽が、春分点や秋分点を通過し、真東から出て真西に沈み、昼夜の時間がほぼ等しい日でもあります。そして、前後の三日間をそれぞれ「春の彼岸」「秋の彼岸」といい、中日の春分の日と秋分の日が、「お彼岸の中日」になるのです。ちなみに戦前は、春季皇霊祭、秋季皇霊祭と称していました。現在でも宮中では、宮中三殿のひとつ

つである皇霊殿において、天皇皇后両陛下皇族方によって、執り行われていきます。何故、祝日になったのでしょうか。

それは、戦前までは、「日のお伴（ひのおとも）」といって、春分の日に一日外へ出て太陽を拝んで歩くという行事がありました。真東から出て真西に沈む、年に一度ある規則正しいお日様の力によって、身体が丈夫になるという伝承があったようです。またこの日を「日忌（ヒイミ）」として、仕事を休んだところもあったようです。祝日となる下地があったのです。

昼の世界は、天照大御神（あまてらすおおみかみ）、夜の世界は、月読命（つきよみのみこと）が治められます。

古事記には、伊耶那岐命（イザナギノミコト）が、禊（ミソギ）をされた時にお生みになった、天照大御神と月読命に、それぞれ昼と夜の世界を治めるように御命令になったと記されています。この二柱の神様の治められる、昼と夜の時間がほぼ等しい秋分の日には、何か大きな力が秘められ、ありがたい恵みがあるような気がしませんか。

「二至二分」の重要な日でもあるし、「先祖様のお墓を参る」「お彼岸」の行事も欠かさず、さらに、秋の夜長に心静かに感謝したいものです。皆様様の御自愛を祈ります。

七月、八月の祭典行事報告

夏越祭 彦島八幡宮

* 七月二十九日 前夜祭



* 七月三十日 御神幸祭



まほろば学級

* 上||開校式

* 八月五日

下||あんどん工作



* 上||閉校式 下||修了証授与



朝粥会

* 八月二十一日、早朝開催

九月の祭典行事予定

月次祭 九月一日、十五日

若宮祭 九月十日、十一日

* 二日間、夜店や平家踊りでにぎやかです!

かです!

朝粥会 九月二十一日早朝

* 毎月二十一日の朝六時半より

祈願祭 宮司講話、お粥の会食

を行つていきます。お気軽にご参加下さい。

どなたでも参加できます。!

貴布禰神社(老町)例祭

* 前夜祭 九月二十二日

* 本殿祭 子供みこし 九月二十二日

秋季祖霊祭 九月二十三日

* 家の宗旨が神道の方の合同の霊祭

が、当宮祖霊殿にて斎行

が、当宮祖霊殿にて斎行

秋季例大祭寄贈金あいさつまわり

* 九月中旬、十月中旬まで

九月の宮司の予定

中国地区神社庁教化担当者会議出席

* 九月三日、山口県神社庁

東庄保育園理事会出席

* 九月五日

玄洋中学校PTA執行部会出席

* 九月六日

神社庁教化委員会啓発部会会議出席

席

* 九月七日

玄洋中学校運動会参加

* 九月九日

神社関係者大会参加

* 九月十二日、山口市

講演講師養成研修会参加、教化講師会出席

* 九月十八日、神社庁

神社庁教化委員会出席

* 九月十九日、神社庁

玄洋中学校PTA常任委員会出席

* 九月下旬

山口県神社庁下関支部幹事会出席

* 九月二十日

秋季例大祭合同部会出席

* 九月二十一日、当宮

* 九月二十一日、当宮